

mizuki

みずき
第6号



大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室ニュース ● 2007年1月発行

contents

- 平成19年 年頭のご挨拶……………P.1
- 本院医療連携室の現状と課題……………P.2
- 診療科の紹介 救急医療部……………P.3
- 第1回三島圏域がん・緩和医療 研修会・セミナー……………P.4
- 平成18年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告……………P.4
- 編集後記……………P.4

謹賀新年 2007

年頭のご挨拶

病院医療相談部部长 花房俊昭

新年明けましておめでとうございます。皆様お健やかに新しい年を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、私ども大阪医科大学附属病院は、地域に開かれた病院であることを目指し、地域の医療機関の皆様と連携して患者さまの診療にあたるよう努力しております。その一端として、昨年より一部で診療報酬が認められるようになりました「地域連携クリニカルパス」についても、現在、積極的に取り組んでおります。本年は、地域の医師会の先生方と意見を交換しながら、脳卒中、がん、糖尿病その他の疾患について「地域連携クリニカルパス」を作成し、患者さまの治療が本院と地域の医療機関との間でスムーズに移行できるシステムを作り上げたいと考えております。またそれ以外にも、地域の医療機関の皆様と交流する機会をできる限り多く設けたいと考えておりますので、本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



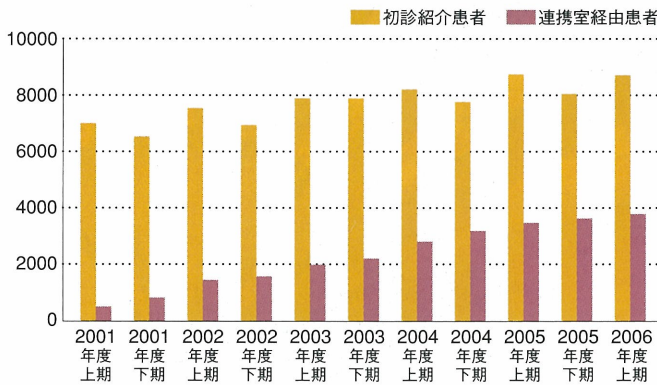
本院医療連携室の現状と課題

昨年11月、日本プライマリケア学会近畿地方会において、「本院における医療連携の現状と課題」と題して発表しました。他医療機関等との連携のための取り組みをよりご理解いただくために、簡単ですがその発表内容をお伝えいたします。

前方連携の取り組み

医療連携室では、専用の申込用紙を利用してFAXで初診患者さまのご紹介申し込みを受け付けています。診療情報提供書をお持ちの初診患者さまの中で、連携室を経由して予約を取られている患者さまは右肩上がりが増えており、全紹介患者さまの半数近くになって来ました(下図)。連携室経由の患者さまは、カルテ作成のほか、各診療科においてできる限りの便宜を図らせていただいています。初診患者さま紹介の折には、ぜひ医療連携室をご利用ください。

<初診紹介患者数と連携室経由患者の推移>



患者さま紹介の際に参考にしていただくために、紹介いただいた医療機関には「診療のご案内」(年1回)と「診療担当表」(2か月に一度郵送。ホームページ掲載分は随時更新)を送付しています。各医師の専門分野、診察日などはこれらを参考にしてください。



後方連携の取り組み

症状が落ち着いた患者さまには、地域の医療機関をご紹介しますが、必要な情報を得てスムーズな連携がとれるように、医療機関訪問やアンケート調査を行っています。情報はデータベースにまとめ、患者さまのニーズにあった医療機関探しに役立てています。

院外連携の取り組み

各医療機関や近隣医師会との連携強化を図ることを目的に、さまざまな会議を主催しています。医師だけではなく、連携事務担当者との会議もあり、顔の見える連携を目指しています。

また、各診療科が主催する「病院医療連携活性化対策事業」は、開業医の先生方との交流を図り、最新の話題提供をする場となっています。



院内連携の取り組み

各診療科から1名ずつ「連携担当医師」を依頼し、会議や懇親会を行っています。さらに連携室の仕事を理解し、協力してもらうために、各科医局、看護部等に出向いての業務説明会も実施しています。今後は、事務部門との連携も更に深めていく予定です。

病診連携室から医療連携室へ

平成18年9月1日から、当部署の名称を「病診連携室」から「医療連携室」に改めました。本院と連携医療機関だけを結ぶ場ではなく、医療に関するあらゆる分野の連携の拠点になりたいとの、願いと決意を込めた改称です。連携を取らせていただいております医療機関と、そして何より患者さまのために、より良い連携ができますよう、今後も努力を続けてまいりますので、ご支援とご鞭撻を心よりお願いいたします。



相談課のご案内

病院医療相談部には医療連携室とともに相談課があります。MSW3名が、患者さまあるいはご家族さまからの、療養生活に伴うさまざまなご相談に対応させていただきます。お気軽にご相談ください。



診療科の紹介 ● 救急医療部



大阪医科大学附属病院 救急医療部の現状と 救急患者受け入れについて

救急医療部 科長
富士原 彰 先生

平素は本院に格別のご指導、ご鞭撻を頂き感謝を申し上げます。地域医療機関から大阪医科大学附属病院に寄せられています救急医療、特に救急患者受け入れに関する質問に答え、本院の救急医療部の診療内容とその取り組みならびに緊急時の患者さまの受け入れについて、ご紹介させていただきます。



【I】主な診療内容とその取り組み

救急医療においては、従来の縦割り診療体制では解決できない病態も多く、患者さまとその病態を包括的に診療する必要があります。本院では、従来通り各専門診療科が個別に救急診療を担っていますが、実際の救急傷病は専門診療科が特定困難なことも少なからず存在します。例えば、原因不明の敗血症や多発外傷などはその例と言えます。当救急医療部は、北米ER型の診療体勢を原則としており、患者さまの呈する病態に応じた初療を開始しつつ、専門診療科を選定し、必要に応じて診療依頼を行っています。即ち、トリアージに重点を置いた診療が主な業務内容であります。また外傷のように、複数科に跨るような病態の患者さまに対して円滑に対応することも主な行動目標にしています。加えて、各専門診療科が個別に請けた救急症例も、一旦、救急外来に搬入し、救急医療部は各専門診療科とともに、その初療にあたっています。つまり、救急傷病者の病院の窓口となるべく、そのコントローラーとしての役割を担っています。ER型の診療体勢を主たる業務としている一方、4床の救急専用病床を保有しており、いずれの専門診療科にも分類できない傷病者、あるいは専門診療を必要としないが入院を要する症例に対応すべく、入院診療も行っています。

本医療圏における機能分担からみれば、初期医療は高槻・島本夜間休日応急診療所、および茨木、摂津市の休日診療所が、二次医療は地域病院が、三次医療は大阪府三島救命救急センターが担当しています。本院救急医療部は24時間365日体制で傷病者の受け入れを行い、地域病院群や三次である大阪府三島救命救急センターと相補的に働き、地域の救急傷病に対応しています。



【II】救急患者の受け入れについて

地域医療機関から寄せられた本院の救急患者の受け入れに関する質問、特に紹介を受けたがその患者さまの容態急変時の受け入れに関する質問が多くみられました。

まとめますと

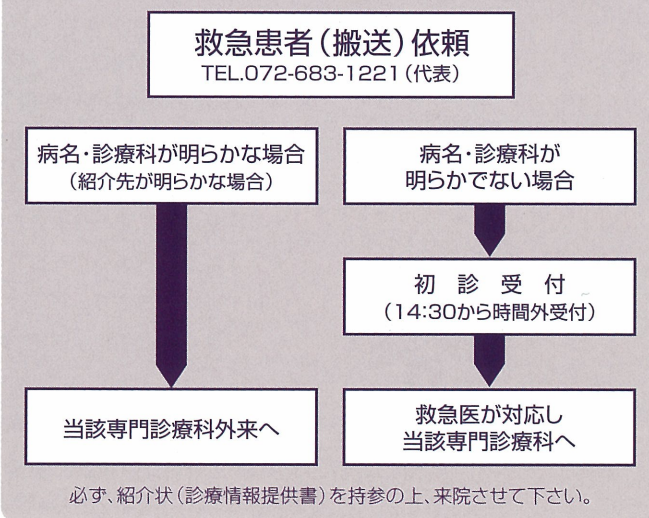
- ①本院がご紹介した患者さまが急変した場合の受け入れについて
- ②本院受診歴のない患者さまの受け入れについて
- ③本院と三島救命救急センターとの施設間の受け入れ区分について

です。①と②については、下図の要領で、病名・診療科が明らかな場合は当該科外来へ、脳卒中・虚血性心疾患については、24時間対応致します。当該科に御相談ください。

病名・診療科が明らかな場合は救急医療部にご相談ください。但し、「救急車を呼んで、医大へ」では対応しきれない場合があります。必ず情報提供をお願いします。

③の事項につきましては、本院の診療内容でお示ししましたごとく、現状においては、明らかに緊急・重症度が高く、集中管理が必要と判断された患者さま（例：ショック状態）、また、複数臓器損傷が考えられる外傷は三次救急医療施設に連絡の上、搬送してください。判断が難しい場合は救急医療部でトリアージさせていただきます。

大阪医科大学附属病院救急対応



第1回三島圏域がん・緩和医療 研修会・セミナー

昨年10月26日に「第1回三島圏域がん・緩和医療研修会」、
11月9日に「第1回三島圏域がん・緩和医療セミナー」を開催しました。

研修会では、本院の「がん疼痛治療マニュアルフローチャート」について、本院消化器内科の川部伸一郎が講演を行い、薬剤部から「麻薬免許取得について」の説明を行いました。

セミナーでは、20年以上の長きに渡り緩和医療を最前線で携わってこられた、筑波大学消化器内科教授の兵頭一之介先生をお招きし、「緩和医療のup to date」と題して、特別講演を行いました。

本年4月には「がん対策基本法」が施行され、どこでも高度ながん治療を受けられるという、がんの均てん化が着実に促進されます。地域における患者さまへの適切な疼痛緩和治療の提供は、日常生活のQOLを高めるためにも大変重要であると考えます。院内だけではなく、地域の先生方の関心も高く、貴重な時間を割いて数多くの先生方にご参加いただきました。



次回
開催予定

- 平成19年2月22日(木)「第2回三島圏域がん・緩和医療研修会」
- 平成19年5月18日(金)「第2回三島圏域がん・緩和医療セミナー」

(問い合わせ先/病院医療相談部)

平成18年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告



昨年11月16日、たかつき京都ホテルにて開催いたしました。今年4月に開学予定の近大姫路大学看護学部から学部長の岡谷恵子先生をお招きし、「地域医療を担う病院機能と看護のあり方」についてお話を伺いました。総勢114名(連携病院77名、院内37名)の先生方にご出席いただき、例年にもまして盛大に行われました。



編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。

広報誌「みずき」は一昨年の6月に創刊号を発刊してから2度目の新年を迎えました。

その間に「セカンドオピニオン外来の開設」「新棟(7号館)のオープン」

「新講義実習棟の竣工」「外来化学療法センターの開設」「4名の新任科長・部長の誕生」

「病院医療相談部主催特別講演会」等々、多様な情報を提供してまいりました。

しかしながら、まだまだ広報誌としての完成度は低く、

今後も病院医療相談部一同の叡智を結集して内容について努力していきたいと考えています。

また本年は十二支の最後の亥年ですが、その干支に負けることの無いように、

更なる前進を続けて行きたいと思っております。

今後も地域の先生方のご支援を賜り、現状に甘んじることなく、

在るべき病院医療相談部 医療連携室の姿を求めていく所存です。

(T.S)